

インドネシア
「グリーン・ウォール」の普及と拡大

現地からのお便り

2017年5月
コンサベーション・インターナショナル

モニタリングと森林再生の経過報告

毎月のモニタリングを続けています。300ヘクタールに植えられた12万本の木は、ほぼすべてよい状態で育っています。木々の状態は、天候、害虫、そして人間の活動に影響を受けますが、大きく成長した木の方が幼木よりもさまざまな要因に耐えることができます。昨年のモニタリングで植え替えが必要と判断された約9,600本の木のうち、9,000本の植え替えを、3月に、地元コミュニティと公園レンジャーのみなさんと一緒に完了しました。植えたのは、自生種であるマグノリア科のマンガリッド、フトモモ科のキシレウム、そしてキョウチクトウ科のラメの木です。



植林木のモニタリング



地元コミュニティメンバーによる植え替え



グリーン・ウォールの木々の様子

メディアキャンペーンとコミュニケーションの強化

2017年1月に、オランダのライデン大学の学生がプロジェクトサイトを訪問しました。グリーン・ウォールプロジェクトのことを学んだインドネシア大学の学生と一緒に、全部で23名の学生がプロジェクトサイトを見てまわりました。



ライデン大学とインドネシア大学の学生たち

看板

現在、5枚の看板がプロジェクトサイトに設置されています。毎月、すべての看板をモニタリングしていますが、現在はすべて問題のない状態です。



看板一号 (2017年1月～3月)



看板二号 (2017年1月～3月)



看板三号 (2017年1月～3月)



看板四号 (2017年1月～3月)



看板五号 (2017年1月～3月)

野性復帰したワウワウテナガザルが出産しました！

1月14日、私たちが野生復帰のトレーニングをして野生に戻したワウワウテナガザルが赤ちゃんを出産しました。この地域で野生復帰させたワウワウテナガザルの夫婦から赤ちゃんが産まれたのは、初めてのことです！野生に戻してから9カ月、復帰トレーニングの成果を示す快挙です！



赤ちゃんを抱く母ワウワウテナガザル

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。